

びわ湖ホール オペラへの招待

プッチーニ作曲

歌劇

# つばめ

La Rondine 全3幕

(イタリア語上演・日本語字幕付)

「びわ湖ホール オペラへの招待」は、「初めてのオペラ」を体験するのにうってつけのシリーズ。

『つばめ』は、プッチーニ晩年の作品で、優しく馴染みやすいメロディー、ソプラノ、テノールの美しいアリア、優雅なワルツなど、作曲家の円熟の境地を示す作品です。

上演機会の少ない作品だけに、今回の充実したキャストでの上演は、「新しいプッチーニの名作」を発見する機会となるでしょう。

世界で活躍するプリマドンナ中村恵理が歌う主役のマグダにもご注目ください。

あらすじ

裕福な銀行家の愛人として暮らすマグダ。その贅沢な生活を友人たちは羨むが、マグダはかつてプリエの店で経験した初恋が忘れられないと語ります。そこに現れた田舎育ちのルッジェーロ。ちょうどその時マグダの手相をみていた詩人のプルニエが「マグダはつばめのように海を渡って恋をする」と予言します。

その夜、小間使いの姿に扮したマグダはプリエの店に現れ、ルッジェーロに話しかけ、二人は意気投合、ワルツを踊り愛を確信しますが…。

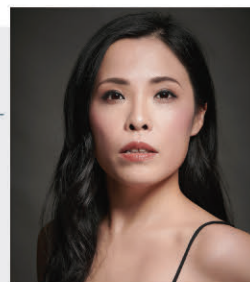
## 世界で活躍する中村恵理が『つばめ』を歌うのは事件である

文=井内美香 音楽ライター/オペラ・キュレーター

中村恵理は世界で活躍するオペラ歌手である。彼女が最初に注目されたのは英国ロイヤル・オペラ『カプレーティ家とモンテッキ家』でネトレブコの急な代役を務めたときであった。絹のように滑らかな声、抜群のコントロール、そして全身で役を演じる彼女に観客は大きな拍手をおくった。その後、英国ロイヤル・オペラではセルバン演出『トゥーランドット』での彼女の素晴らしいリユー役の演唱が映像化されている。2010年から6年間、ミュンヘンのバイエルン州立歌劇場の専属歌手として歌っていたときには幅広い演目に出演し、多くの主役も歌った。他にはワシントン・オペラ、チリのサンティアゴ市立劇場、ウィーン国立歌劇場などにも出演している。日本では『フィガロの結婚』スザンナ役や、東京文化会館、新国立劇場、びわ湖ホール、札幌文化芸術劇場4館による提携公演『トゥーランドット』で絶賛されたリユー役など、近年オペラ出演が増えてきており嬉しい限りだ。

その彼女が10月(8日・10日)に、びわ湖ホールでプッチーニ『つばめ』を歌うのは事件である。『つばめ』の舞台は第二帝政時代のパリ。ストーリーは『椿姫』に『ラ・ボエーム』のエッセンスを少し加えたような展開だが、大きく違うのはマグダが若いルッジェーロとの恋愛の始まりと終わりにおいて、大人の女として自ら決断を下すところだ。

歌う部分が多く表現も幅広い、難しいけれど魅力的な役柄である。オペラに詳しい方は、彼女がこれまで高い評価を得てきたスザンナやリユーなどの健気な娘の役柄を思い浮かべ、妖艶な美女マグダをどう歌うのか?と思うかもしれない。だが実は彼女の歌にはこれまでも常に自然な色気があった。特にフランス・オペラやベルカントなどを聴いていると、短いアリアや重唱の中でもどどんと表情が変わり、彼女の演ずる人物の魅力に溺れてしまいそうになる。『椿姫』のヴィオレッタより大人で、だからこそのほろ苦い結末。彼女がマグダをどう表現するのかがとても興味深い公演なのである。



中村恵理 Nakamura Eri

大阪音楽大学、同大学院修了。新国立劇場オペラ研修所を経て、2008年英国ロイヤル・オペラにデビュー。翌年、同劇場の『カプレーティ家とモンテッキ家』にネトレブコの代役として出演し、一躍脚光を浴びる。10～16年、バイエルン州立歌劇場のソリストとして専属契約。『フィガロの結婚』スザンナ役でデビュー後、ケント・ナガノ、キリル・ペレリノ、大野和士の指揮のもと、『魔笛』『ホフマン物語』『ヘンゼルとグレーテル』等に主要キャストとして出演。その他、ベルリン・ドイツ・オペラ、ザルツブルク州立劇場など客演多数。16年11月には『チェネントラ』クロリダ役でウィーン国立歌劇場にデビューするなど活躍の場を広げている。17年に新国立劇場および兵庫県立芸術文化センター『フィガロの結婚』、宮崎国際音楽祭「椿姫」をはじめ、各地でのリサイタルに出演。12年度アリオン賞、15年度芸術選奨文部科学大臣新人賞、17年第47回JXTG音楽賞洋楽部門奨励賞受賞。大阪音楽大学客員准教授。びわ湖ホールには2018年、19年「近江の春 びわ湖クラシック音楽祭」に出演。

マグダ役 山田知加さん(びわ湖ホール声楽アンサンブル)からのメッセージ



大変光栄なことに、私の歌手人生において最大級のヒロイン「マグダ」を務めさせていただくことになりました。緊張もプレッシャーもありますが、素晴らしい共演者の方々と素晴らしい作品を作り上げられる事が今から楽しみです。

この演目をやる事を知らされた時、恥ずかしながらあまりピンと来ておりませんでした。「アリアは有名だけど、どんなオペラなんだろう」と映像を観まして、煌びやかな世界観にとってもワクワクしたのを覚えています。私もそうでしたので、きっとまだ『つばめ』を観たことのない皆様も、お楽しみいただける事と思います。

なぜ「つばめ」なのか、ドレッタの夢は誰の夢なのか、二つのカップルの行く末などなど、是非会場でお楽しみください!

ルッジェーロ役 谷口耕平さん(びわ湖ホール声楽アンサンブル)からのメッセージ



これまで数々の役を演じてきましたが、プッチーニ作品の大きな役を演じるのは初めてです。この作品は10年ほど前に観劇したことがあるのですが、そのときは正直「なんだこの終わり方は?」と思ってしまいました。ですが今改めてこの『つばめ』に向き合うと、一筋縄ではいかない恋愛や、夢と現実の狭間の葛藤など、共感できる部分がたくさんあります。

上演機会の少ない作品ではありますが、初めて見ていただいたお客様方に「何とも言えない気持ちになったけど、よかった」と言っていただくのが目標です。プッチーニらしき満点の美しいメロディーにあふれています!今回は4日連続ルッジェーロ役という異例のチャンスをいただいたので、オペラ歌手として大きくレベルアップしたいと思います!会場でお待ちしております!

びわ湖ホール オペラへの招待 全3幕(イタリア語上演・日本語字幕付)

各回、上演前(14:00~)にオペラのことがよくわかる演出家のお話があります(全日程)

プッチーニ作曲 歌劇『つばめ』 10月8日(金)・9日(土)・10日(日)・11月(月) 各日14:00開演 [中ホール]

一般5,000(4,500)円 青少年(25歳未満)2,000円 シアターメイツ1,000円 ※( )内は友の会会員料金

